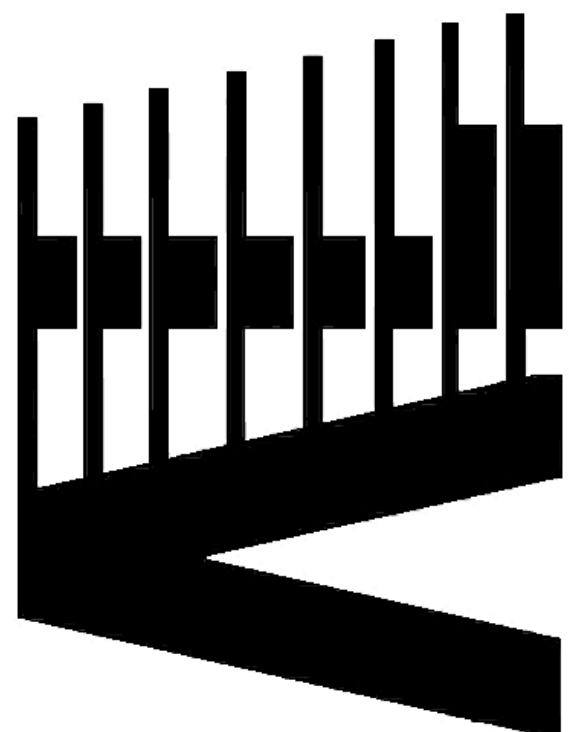
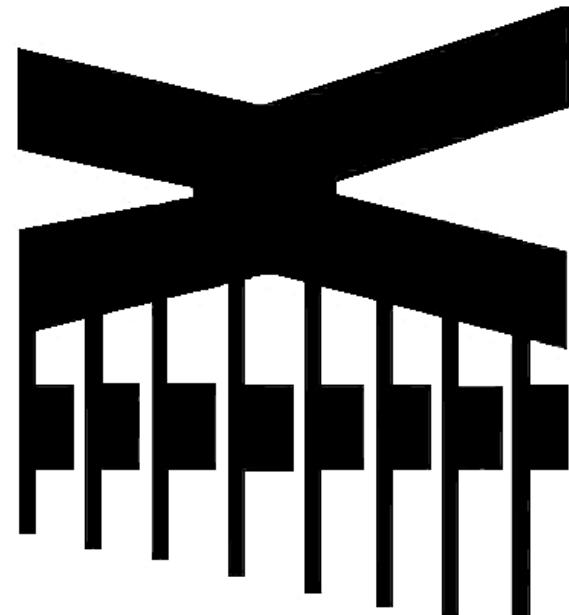


映像／音声エラー検出装置  
VAD-230HD  
V/A ERROR DETECTION UNIT

監視ソフトウェア 操作説明書

Ver. 1. 1



## 目 次

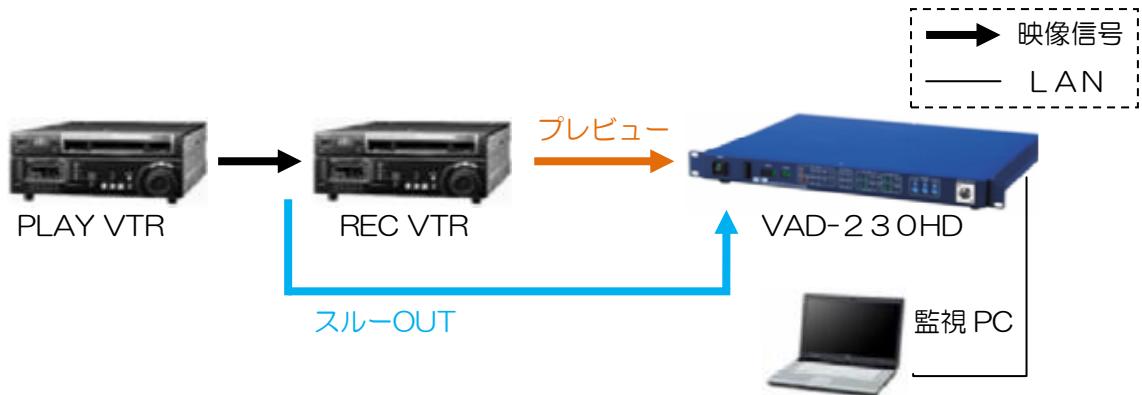
	ページ
1. 概要 .....	1
2. 画面説明 .....	2
2. 1 メイン画面 .....	2
2. 2 設定値の選択 .....	5
2. 3 設定値の設定・変更 .....	6
2. 3. 1 しきい値設定 .....	8
2. 3. 2 マスク値設定 .....	16
2. 4 IPアドレス設定 .....	19
2. 5 ログ保存設定 .....	20
2. 6 ログ表示設定 .....	21
2. 7 映像キャプチャ .....	23
2. 7. 1 映像キャプチャ設定 .....	23
2. 7. 2 映像キャプチャファイルの再生 .....	24
2. 7. 3 プレビュー表示 .....	27
2. 8 ログ操作 .....	28
2. 8. 1 システムログ参照 .....	28
2. 8. 2 ログ検索 .....	29
2. 8. 3 ログ削除 .....	31
2. 9 VAD情報参照 .....	32
2. 9. 1 測定レベル参照 .....	32
2. 9. 2 アラーム状態参照 .....	33
2. 9. 3 しきい値参照 .....	34
2. 9. 4 ハードウェア時刻の参照と設定 .....	36
2. 9. 5 VADバージョン情報参照 .....	38
2. 10 バージョン情報 .....	39
3. 映像キャプチャ ソフトウェア .....	40
3. 1 概要 .....	40
3. 2 操作説明 .....	41
4. 特記事項 .....	42
4. 1 インストールフォルダにあるファイルについて .....	42

## 1. 概要

本書は「映像／音声エラー検出装置 VAD-230HD (以下、VAD-230HD) に添付されるソフトウェア (以下、監視ソフト) の操作について説明するものです。

監視ソフトは、VAD-230HD より通知される各種エラー情報のロギング、及び、調整・設定を行う機能を持っています。また、映像比較エラー発生時に映像キャプチャ処理を行います。

以下にシステム構成例を示します。



## 2. 画面説明

### 2. 1 メイン画面

監視ソフトを起動した際に表示される画面です。

この画面ではエラー状況ログが表示されます。

左部のボタンから各種設定・調整メニューを選択できます。

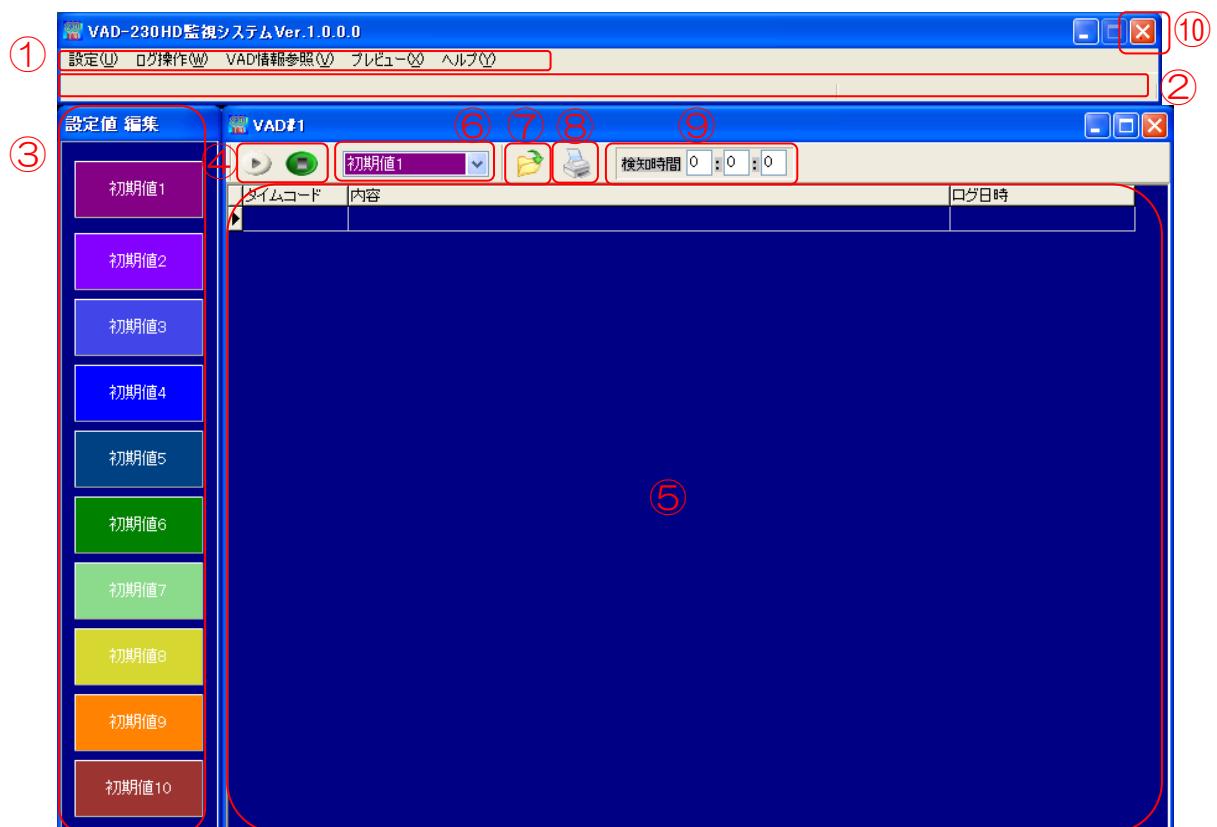


図2. 1-1 メイン画面

- ① メニューバーより処理を選択します。
- ② ステータスバーに、VAD-230HDとの通信状況、監視ソフトの操作状況を表示します。  
キャプチャを行うシステムの場合、ハードディスクの残容量を表示します。  
残容量が1GByte以上の時の表示例です。 HDD残容量 36.802 GByte  
残容量が1GByte未満になると背景色を黄色表示します。 HDD残容量 968 MByte
- ③ 設定値の設定および変更を行います。  
(詳細は「2. 2 設定値の選択」参照)

④ VAD-230HD のエラー検出「開始」「停止」状態を表します。

※監視ソフトからエラー検出の開始／停止を行うことも可能ですが、ダビング管理ソフトウェアと接続し「開始」「停止」を制御している時は、監視ソフト、及び、VAD-230HDからのエラー検出「開始」「停止」は行わないでください。



： エラー検知を停止しています。



をクリックすると検知を開始します。



： エラー検出中です。



をクリックすると検知を停止します。

⑤ ログ表示画面

エラー発生状況を逐次ログに蓄積します。

ログ表示に使用する文言は一部「ログ表示設定」にて設定する事ができます。

（詳細は「2. 6 ログ表示設定」参照）

また、映像比較エラーのログをダブルクリックすると、エラー画像の再生を行います。

（詳細は「2. 7 映像キャプチャ」「3. 映像キャプチャ ソフトウェア」参照）

⑥ 設定値選択画面

設定値の選択を行います。

（詳細は「2. 2 設定値の選択」参照）

⑦ エラーログの保存先フォルダを開きます。

※エラー検出中は操作できません。

（詳細は「2. 5 ログ保存設定」参照）

⑧ エラーログを印刷します。

⑨ 検知時間の設定を行います。

検知時間を設定すると、検知開始から検知時間経過後、検知を自動停止します。

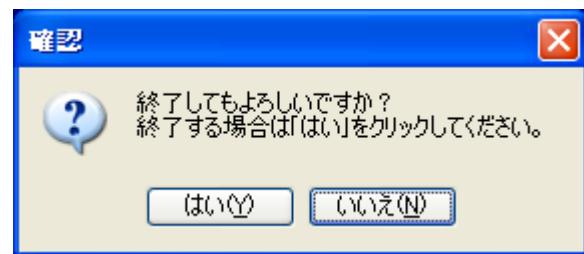
また、自動停止までの残り時間を表示します。

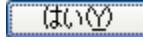
**残り < 01:59:57 >**

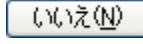
検知時間が<0 : 0 : 0>秒の場合、自動停止しません。

※エラー検知中は操作できません。

- ⑩  をクリックすると以下の確認メッセージが表示されます。



 をクリックすると監視ソフトを終了します。

 をクリックすると終了処理を中止し、本画面に戻ります。

## 2. 2 設定値の選択

本画面では、VAD-230HD へ設定するしきい値とエラー検出時のマスク値を選択します。

設定値の選択時にしきい値を VAD-230HD に設定します。

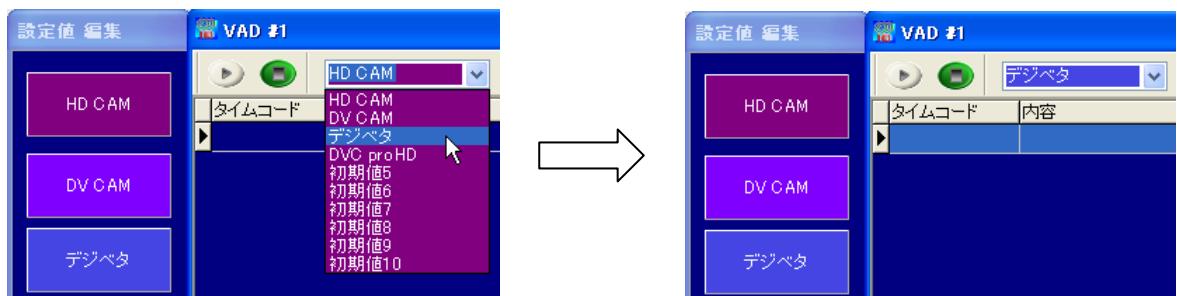
また、設定値を他のボタンにコピーすることができます。

※ダビング管理ソフトウェアと接続し「開始」「停止」を制御している時は、本操作を行わないでください。本操作にて設定値等を変更しても、ダビング管理ソフトウェアには反映されません。

### ① 設定値の選択

VAD-230HD へ設定したい、しきい値、マスク値が登録されているボタンをリストから選択します。

- 1) VAD-230HD にしきい値を設定します。この時、「ステータスバー」に設定の成否が表示されます。
- 2) エラー検出時のマスク値を更新します。
- 3) 選択した設定値が表示されます。



### ② 設定値の設定及び、変更

設定値を設定・変更したいボタン上でマウスをダブルクリックします。

「2. 3 設定値の設定・変更」画面が開きます。

### ③ 設定値のコピー

設定値をコピーしたいボタン上でマウスを右クリックします。

ポップアップメニューが表示されますので「コピー」→「コピー先のボタン名」をクリックします。



## 2. 3 設定値の設定・変更

本画面では、VAD-230HDに設定するしきい値とエラー検出時のマスク値を編集・設定します。

※ダビング管理ソフトウェアと接続し「開始」「停止」を制御している時は、本操作を行わないでください。本操作にて設定値等を変更しても、ダビング管理ソフトウェアには反映されません。

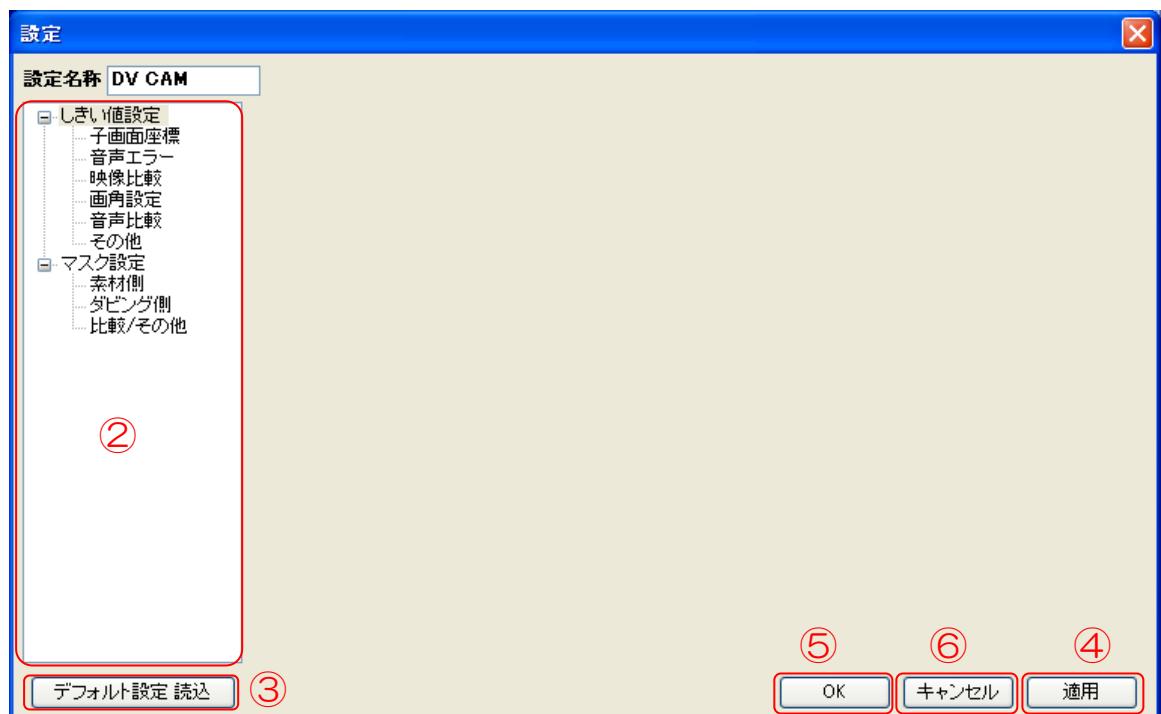


図2. 3-1 設定画面

① 本画面の表示

「2. 2 設定値の選択」にてボタン上でダブルクリックします。

② 設定画面の切り替え

「子画面座標」・・・「素材側」・・・の各アイテムをクリックします。

③ デフォルト値の読み込み

**「デフォルト設定 読込」** ボタンをクリックします。

しきい値とマスク値がデフォルト値に置き換わります。

## ④ 設定値の保存

**適用** ボタンをクリックしてください。

※ 設定値に変更がない場合、ボタンは無効となります。

## ⑤ 設定値の保存と本画面の終了

**OK** ボタンをクリックします。

※ 設定値に変更がない場合、ボタンは無効となります。



※「設定値 選択ボックス」にて選択されている場合（左図）、設定値の保存時にVAD-230HDにしきい値を設定します。  
この時、「ステータスバー」に設定の成否が表示されます。  
また、エラー検出時のマスク値を更新します。

## ⑥ 本画面の終了

**キャンセル** ボタンをクリックします。

## \* \* ト ラ ッ ク バ ー の 操 作 方 法 \* \*



を ド ラ っ グ (マウスの左ボタンを押したまま)、または、を ク リ ッ ク し キ ー ボ ー ド の「←」「→」キーで左右に動かします。設定値はト ラ ッ ク バ ー の 左 端 ま た は、右 端 表 示 さ れ ま す。

## 2. 3. 1 しきい値設定

VAD-230HDIに対するしきい値を設定します。

### 1. 子画面座標

子画面のエラー検出を行う場合に設定します。

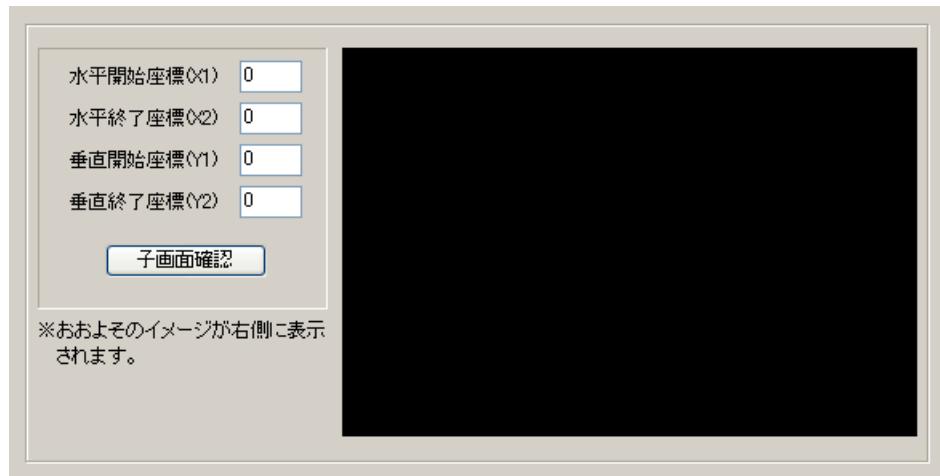


図2. 3-2 しきい値設定画面（子画面座標）

#### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「しきい値設定」→「子画面座標」をクリックします。

#### ② 設定値の編集

##### 1) 水平開始座標(X1)

<0>～<619>の範囲で設定します。

##### 2) 水平終了座標(X2)

<101>～<720>の範囲で設定します。

(水平終了座標－水平開始座標) > 100 となるように設定してください。

##### 3) 垂直開始座標(Y1)

<0>～<454>の範囲で設定します。

##### 4) 垂直終了座標(Y2)

<31>～<485>の範囲で設定します。

(垂直終了座標－垂直開始座標) > 30 となるように設定してください。

#### ③ 子画面範囲の確認

**子画面確認** ボタンをクリックすると、右側に設定範囲を表示します。

## 2. 音声エラー

音声レベルの高／低エラー、及び、無音と音声エラーを検知する音声チャンネルを設定します。

[素材側] 音声(-dB)								
	Ch1(L)	Ch2(R)	Ch3(C)	Ch4(LFE)	Ch5(LS)	Ch6(RS)	Ch7(Lt)	Ch8(Rt)
レベル低	35	35	35	35	35	35	35	35
レベル高	5	5	5	5	5	5	5	5
無音	40	40	40	40	40	40	40	40

[ダビング側] 音声(-dB)								
	Ch1(L)	Ch2(R)	Ch3(C)	Ch4(LFE)	Ch5(LS)	Ch6(RS)	Ch7(Lt)	Ch8(Rt)
レベル低	35	35	35	35	35	35	35	35
レベル高	5	5	5	5	5	5	5	5
無音	40	40	40	40	40	40	40	40

音声エラー検知							
素材側	全Ch 検知ON						
ダビング側	全Ch 検知ON						

図2. 3-3 しきい値設定画面（音声エラー）

### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「しきい値設定」→「音声エラー」をクリックします。

### ② 設定値の編集

#### 1) 音声エラー

設定単位は（-dB）です。

##### a. レベル低

音声レベル低エラーを検知するしきい値を<0>～<50>(-dB)の範囲で設定します。

設定値を下回ると音声レベル低エラーとなります。

##### b. レベル高

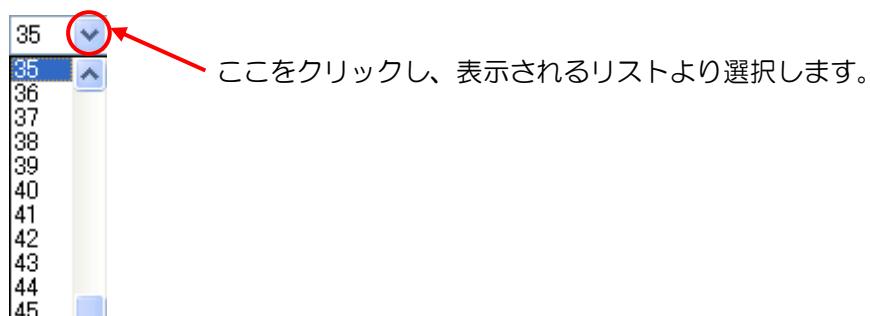
音声レベル高エラーを検知するしきい値を<0>～<50>(-dB)の範囲で設定します。

設定値を超えると音声レベル高エラーとなります。

##### c. 無音

無音を検知するしきい値を<0>～<50>(-dB)の範囲で設定します。

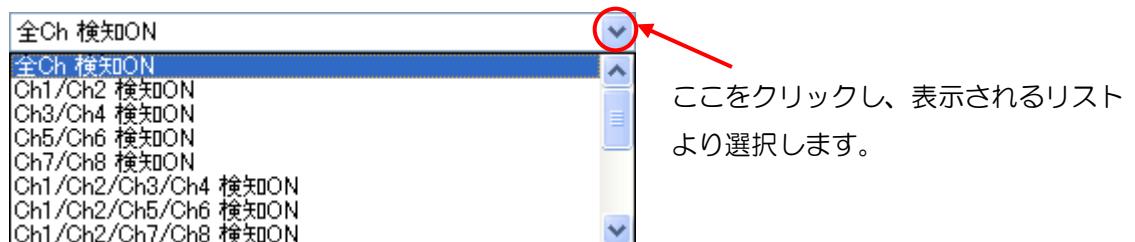
設定値を下回ると無音となります。



## 2) 音声エラー検知

音声エラーを検知する音声チャンネルをリストより選択します。

検知 ON としない音声チャンネルのエラーは VAD-230HD より通知されません。



### 3. 映像比較と黒味検知

スルーOUT（録画元：以下、素材側）映像と録画再生出力（録画先：以下、ダビング側）映像の比較エラーと黒味を判断するしきい値を設定します。

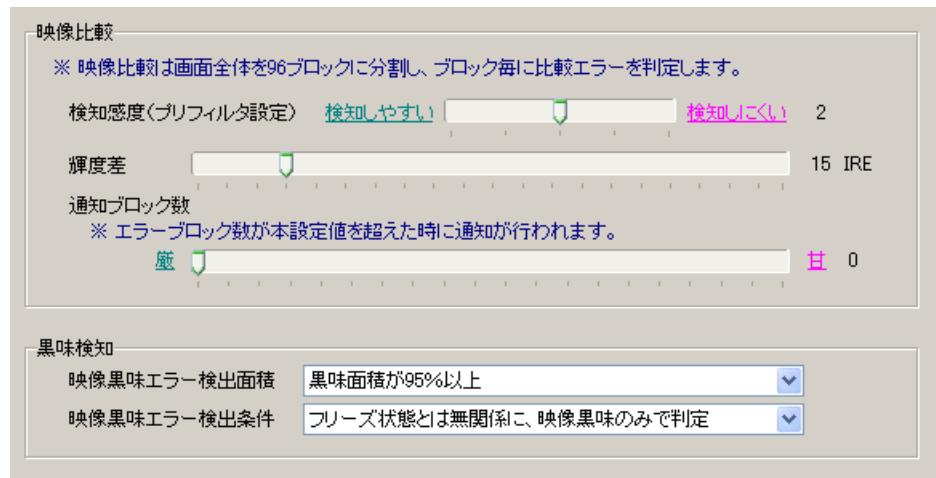


図2. 3-4 しきい値設定（映像比較と黒味検知）

#### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「しきい値設定」→「映像比較」をクリックします。

#### ② 設定値の編集

##### 1) ブロックエラー

画面全体を96ブロックに分割した1ブロックを比較し、輝度エラーと判断するしきい値を設定します。

###### a. 検知感度

映像比較のエラー検知感度を設定します。

5段階の設定があり、「4」が検知しやすい（厳しい）、「0」が検知しにくい（甘い）設定となります。

###### b. 輝度差

1ブロックの比較エラーを検知する輝度差を<0>～<99>（IRE）の範囲で設定します。

1ブロックの輝度差が設定値以上になるとブロックエラーと判断します。

###### c. 通知ブロック数

ブロックエラーを通知するエラーブロック数を<0>～<95>の範囲で設定します。

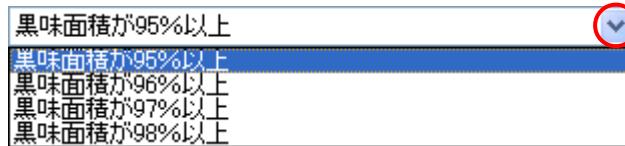
値を小さくすると検知しやすい（厳しい）設定となり、大きくすると検知しにくい（甘い）設定となります。

エラーブロック数が設定値以上になると映像比較エラーとなります。

## 2) 黒味検知

## a. 映像黒味エラー検出面積

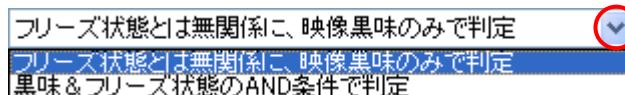
映像黒味エラーを検出するしきい値を設定します。



ここをクリックし、表示されるリストより選択します。

## b. 映像黒味エラー検出条件

映像黒味エラーを検出する条件を設定します。



ここをクリックし、表示されるリストより選択します。

#### 4. 画角設定

素材側映像とダビング側映像の画面サイズと位置合わせを行います。



図2. 3-5 しきい値設定（画角設定）

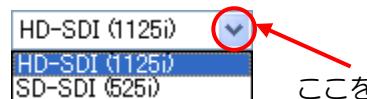
##### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「しきい値設定」→「画角設定」をクリックします。

##### ② 設定値の編集

###### 1) 入力映像解像度

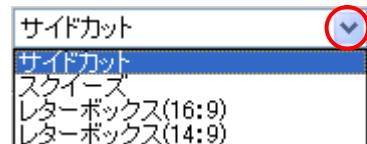
素材側、ダビング側の映像解像度を設定します。



ここでクリックし、表示されるリストより選択します。

###### 2) HD-SDI 入力映像の画角設定

HD-SDI 入力映像のダウンコンバート方式を設定します。



ここでクリックし、表示されるリストより選択します。

###### 3) 素材側のサイズと位置

素材側の水平／垂直サイズ、水平／垂直位置を設定します。

VAD-230HD本体から出力されるアジャスト画面のモニタ表示を確認しながら、設定を行ってください。

## 5. 音声比較

音声比較を行う音声チャンネルと、音声比較エラーを判断するしきい値を設定します。

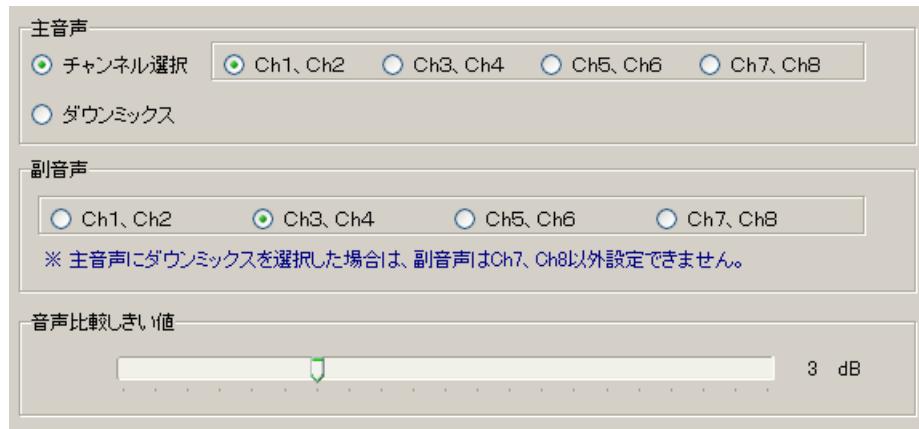


図2. 3-6 しきい値設定（音声比較）

### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「しきい値設定」→「音声比較」をクリックします。

### ② 設定値の編集

#### 1) 音声比較チャンネルの指定

音声比較を行う音声チャンネルを設定します。

##### a. 主音声

主音声を設定します。

##### b. 副音声

副音声を設定します。

※「主音声」にて「ダウンミックス」を選択した場合、「副音声」は<Ch7,Ch8>となります。

#### 2) 音声比較しきい値

音声比較しきい値を<0>～<10>(dB)の範囲で、<0.5>(dB)毎に設定します。

音声比較差が、設定値を超えると音声比較エラーとなります。

## 6. その他



図2. 3-7 しきい値設定画面（その他）

## ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「しきい値設定」→「その他」をクリックします。

## ② 設定値の編集

## 1) タイムコード選択

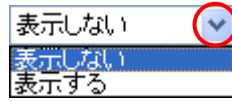
HD-SDI 入力時のタイムコードを設定します。



ここをクリックし、表示されるリストより選択します。

## 2) モニタ表示設定

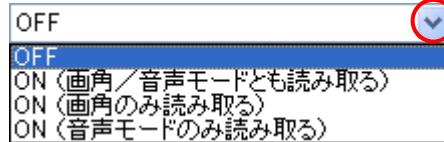
子ウインドウの表示有無を設定します。



ここをクリックし、表示されるリストより選択します。

## 3) 地域情報読み取り

地域情報の読み取り有無を設定します。



ここをクリックし、表示されるリストより選択します。

## 4) ディレイ設定

VAD-230HDに対するディレイ量を手動で設定できます。

<999>を設定すると、映像側遅延量を基準として設定します。

<998>を設定すると、音声側遅延量を基準として設定します。

<0~30>を設定した場合は、入力値で設定されます。

## 2. 3. 2 マスク値設定

本設定の対象となる VAD-230HD から発生したエラーに対するマスク値を設定します。  
マスクとはある特定のエラーが実発生した際、設定したマスク値の秒数分だけ発報を遅らせ、  
マスク時間が経過した後もアラームが持続していたら発報するという意味です。

### 1. 素材側エラーのマスク値設定

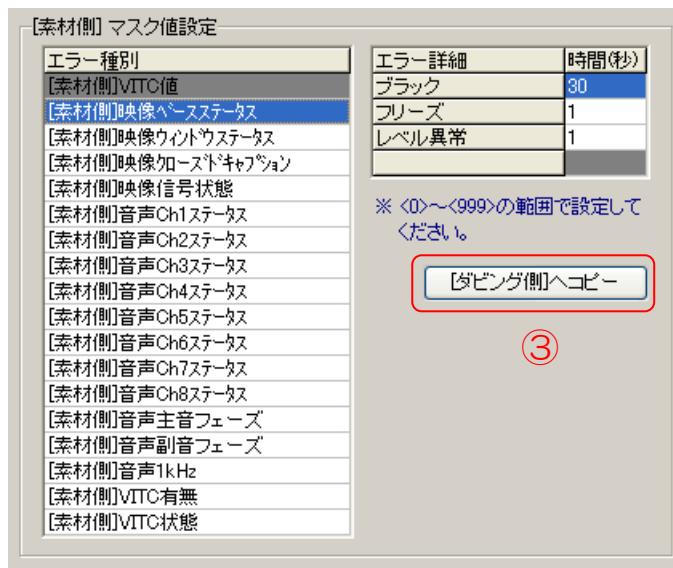


図2. 3-8 マスク設定画面(素材側)

#### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「マスク設定」→「素材側」をクリックします。

#### ② マスク値の編集

マスク値を設定する「エラー種別」(左側)を選択します。

現在の設定値が「エラー詳細」(右側)に表示されます。

「エラー詳細」の「時間(秒)」欄をクリックすると編集モードとなります。

マスクする時間(秒)を<0>～<999>の範囲で設定します。

#### ③ マスク値のコピー

素材側エラーのマスク値をダビング側エラーのマスク値にコピーすることができます。

素材側エラーのマスク値設定後 [ダビング側]へコピー ボタンをクリックしてください。

## 2. ダビング側エラーのマスク値設定

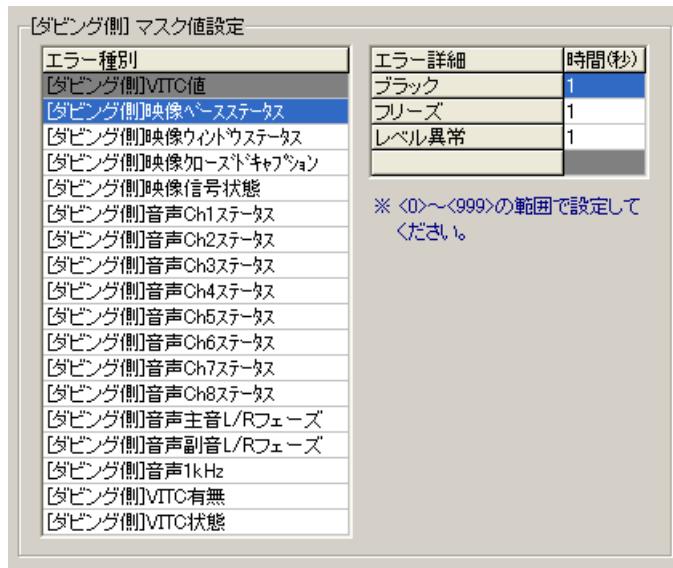


図2. 3-9 マスク設定画面(ダビング側)

### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「マスク設定」→「ダビング側」をクリックします。

### ② マスク値の編集

マスク値を設定する「エラー種別」(左側)を選択します。

現在の設定値が「エラー詳細」(右側)に表示されます。

「エラー詳細」の「時間(秒)」欄をクリックすると編集モードとなります。

マスクする時間(秒)を<0>～<999>の範囲で設定します。

### 3. 比較エラーのマスク値設定

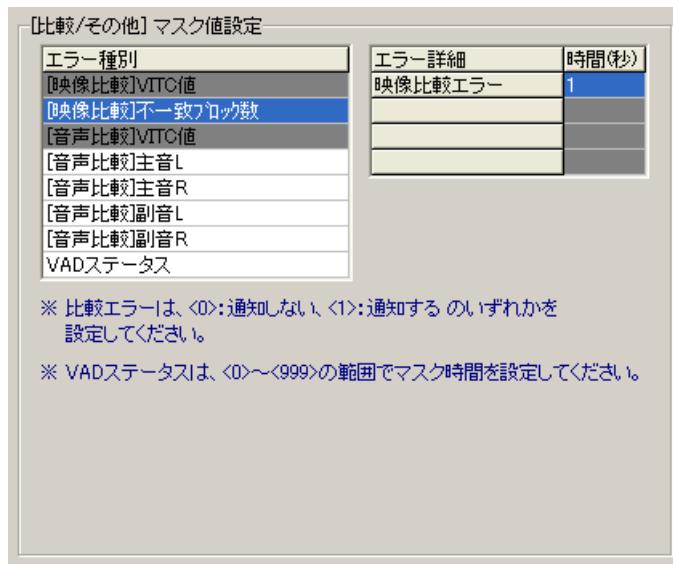


図2. 3-10 マスク設定画面(比較エラー)

#### ① 本画面の表示

左側のツリー表示より「マスク設定」→「比較／その他」をクリックします。

#### ② マスク値の編集

マスク値を設定する「エラー種別」(左側)を選択します。

現在の設定値が「エラー詳細」(右側)に表示されます。

「エラー詳細」の「時間(秒)」欄をクリックすると編集モードとなります。

比較エラーの場合は、通知有無を入力します。

設定値<0>でエラー通知を行わない、<1>でエラー通知を行う、となります。

VADステータスの場合は、マスクする時間(秒)を<0>～<999>の範囲で設定します。

## 2. 4 IPアドレス設定

本画面ではVAD-230HDのIPアドレスとコミュニティ名称を設定します。

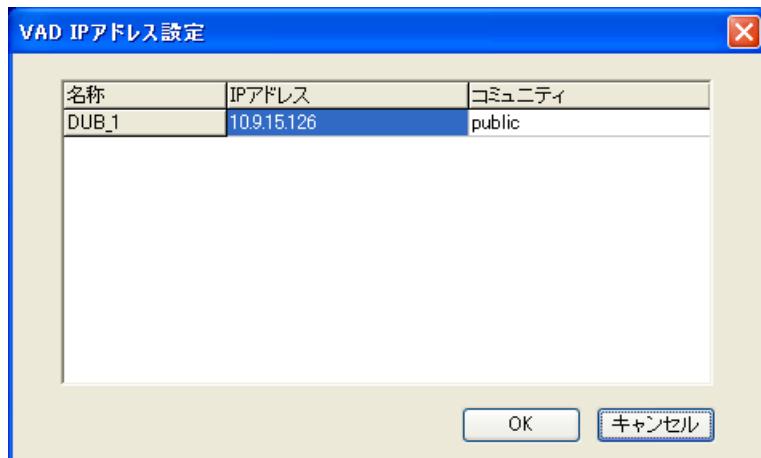


図2. 4-1 VAD IP アドレス設定

① 本画面の表示

メニューバーの「設定」→「システム設定」→「VAD-IP アドレス設定」をクリックします。

② 設定値の編集

監視するVAD-230HDの「IPアドレス」と「snmpコミュニティ名」を入力します。  
 「snmpコミュニティ名」には、監視するVAD-230HDに設定されている名称を設定してください。

③ 名称の表示

管理PCにて設定した卓名を表示します。

④ 設定内容の保存とキャンセル

設定が終了しましたら **OK** ボタンをクリックして下さい。

設定を中止する場合は **キャンセル** ボタンをクリックして下さい。

## 2. 5 ログ保存設定

本画面ではログの保存可否と保存先を設定します。

※エラー検出中は操作できません。

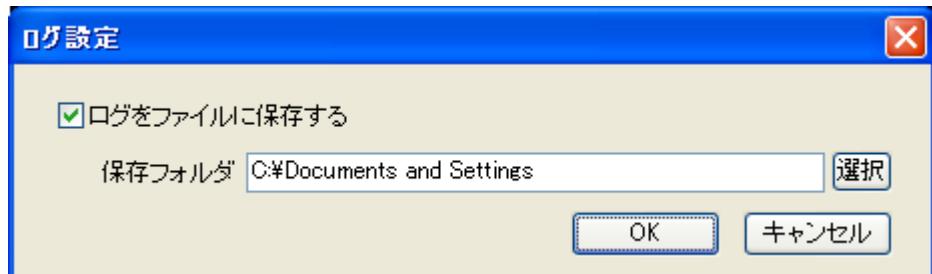


図2. 5-1 ログ保存設定

### ① 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「ログ設定」→「ログ保存設定」をクリックします。

### ② ログ保存設定

ログを保存する場合は、「ログをファイルに保存する」にチェックを付けてください。

保存フォルダの選択は「選択」ボタンをクリックすると、フォルダ選択ダイアログが表示されます。対象のフォルダを選択してください。

※「ログをファイルに保存する」にチェックがついていない場合、「メイン画面」の「保存先表示」アイコン  は表示されません。

### ③ 設定内容の保存とキャンセル

設定が終了しましたら「OK」ボタンをクリックして下さい。

設定を中止する場合は「キャンセル」ボタンをクリックして下さい。

### ④ ログ保存先フォルダの表示

「メイン画面」の「保存先表示」アイコン  をクリックします。

VAD番号\_月日\_時分秒.csv のログファイル一覧が表示されます。

ログファイル名の日時は、エラー検出開始時間となっています。

## 2. 6 ログ表示設定

本画面ではエラー発生時にログに表示する文言を設定します。

ログに表示される文言は一部、本設定外の文言が固定で付加されることがあります。



図2. 6-1 ログ表示設定画面

### ① 本画面の表示

メニューバーの「設定」→「ログ設定」→「ログ表示設定」をクリックします。

### ② 表示ログの編集

#### 1) ログ内容の編集

左側選択領域のエラー項目をクリックにて選択し、右側編集領域に表示します。

右側編集領域の表示文字列欄をダブルクリックし、文字列を編集します。

## 2) 表示色の設定

変更したい文字列の表示文字列欄を選択してから右クリックすると「文字色変更」メニューがポップアップするのでクリックします。

2. 6-2 ログ表示文字色設定

設定したい色をクリックすると、選択色欄に表示されます。

**設定** ボタンをクリックすると、表示文字列欄が設定色で表示されます。

**閉じる** ボタンをクリックするとログ表示文字色設定画面を閉じます。

## ③ 表示ログの保存

左側選択領域のエラー項目 1 行毎に **更新** ボタンをクリックします。

**更新** ボタンをクリックせずに左側選択領域をクリックすると変更は保存されません。

変更をキャンセルする場合は、**やりなおし** ボタンをクリックしてください。

## ④ 本画面の終了

**閉じる** ボタンをクリックします。

## 2. 7 映像キャプチャ

### 2. 7. 1 映像キャプチャ設定

映像比較エラー発生時に保存するキャプチャファイルの設定を行います。

※キャプチャを行わないシステム構成の場合、本画面は表示されません。

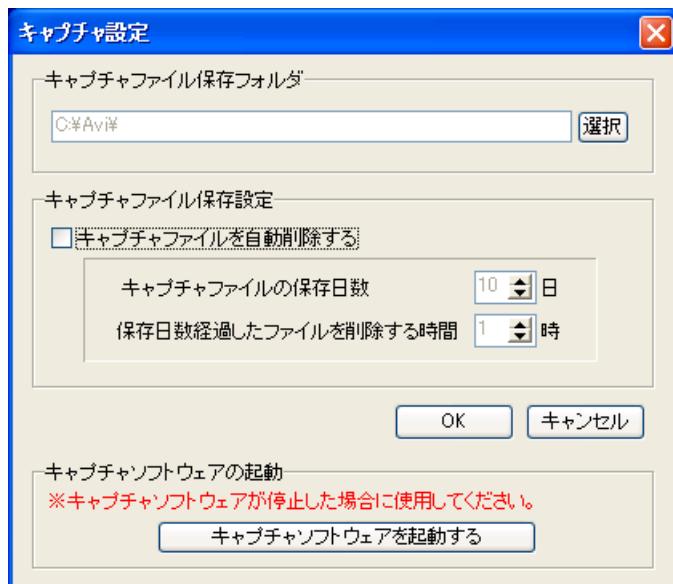


図2. 7-1 キャプチャ設定

① 本画面の起動

メニューバーの「設定」→「キャプチャ設定」をクリックします。

② キャプチャファイル保存フォルダ

**選択** ボタンをクリックし、保存先を選択します。

③ キャプチャファイル保存設定

「キャプチャファイルを自動削除する」にチェックを付けると保存日数と削除する時間が編集できるようになります。

④ 設定内容の保存とキャンセル

**OK** ボタンをクリックすると、設定を保存し本画面を閉じます。

**キャンセル** ボタンをクリックすると、設定を中止し本画面を閉じます。

⑤ キャプチャソフトウェアの起動

キャプチャソフトウェアを起動します。キャプチャソフトウェアを任意に停止してしまった時に実行してください。キャプチャソフトウェアが起動していないと、キャプチャできません。

## 2. 7. 2 映像キャプチャファイルの再生

映像比較エラー発生時に保存した映像キャプチャファイルを再生します。



図2. 7-2 キャプチャファイルの再生（連続）

### ① 本画面の表示

「ログ画面」の映像比較エラーのログ行をダブルクリックします。

再生ファイルが存在しない場合は、その旨ダイアログが表示されます。

### ② 本画面の操作

#### 1) 再生速度の設定

- a. **遅く** … 再生時のスピードを遅くする。
- b. **早く** … 再生時のスピードを速くする。
- c. **通常** … 再生時のスピードを通常にする。

#### 2) 1フレーム毎に表示

**1コマ表示** ボタンをクリックします。

再生中のキャプチャファイルの先頭からコマ送りに画像を確認できます。

#### 3) サムネイル表示

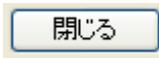
**サムネイル** サムネイルボタンをクリックします。

再生中のキャプチャファイルを 60 フレーム表示します。

## ③ 本画面の表示情報

キャプチャファイルのフレームサイズ、再生時間を表示します。

## ④ 本画面の終了

 閉じる ボタンをクリックしてください。

## 1. 1コマ表示



図2. 7-3 キャプチャファイルの再生(コマ送り)

## ① 本画面の操作

## a. コマ戻し

画面中央より左側をクリックします。

## b. コマ送り

画面中央より右側をクリックします。

## ② ウィンドウサイズの拡大

ウィンドウ枠にマウスポインタを合わせ、ドラッグすることでウィンドウサイズを拡大できます。

## ③ 本画面の終了

 をクリックします。

## 2. サムネイル表示

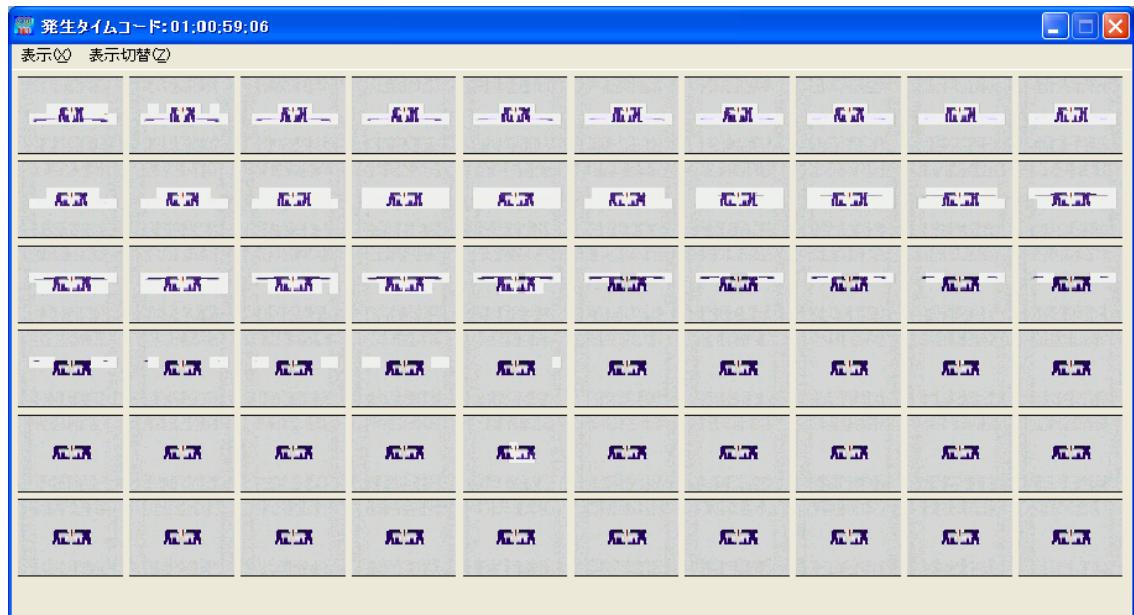


図2. 7-4 キャプチャファイルの再生(サムネイル)

### ① 本画面の操作

#### 1) 1フレームを拡大表示

拡大したいフレームをクリックします。

「1コマ表示」画面が表示されます。

#### 2) 表示切り替え

表示サイズの切り替えが可能です。

メニューバーの「表示切替」をクリックします。

※表示サイズによって以下の解像度より低い画面は、表示をはみ出します。

[小] : SVGA(800×600 ドット)

[中] : XGA(1024×768 ドット)

[大] : SXGA(1280×1024 ドット)

### ② 本画面の終了

メニューバーの「表示」→「閉じる」をクリックするか、ESCキーを押します。

## 2. 7. 3 プレビュー表示

本画面では、映像のプレビュー表示を行います。

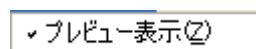


図2. 7-5 プレビュー画面

### ① 本画面の表示

メニューバーの「プレビュー」→「プレビュー表示」をクリックします。

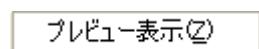
「プレビュー表示」メニューにチェックが付きます。



### ② 本画面の終了

メニューバーの「プレビュー」→「プレビュー表示」をクリックします。

「プレビュー表示」メニューのチェックが消えます。



## 2. 8 ログ操作

### 2. 8. 1 システムログ参照

本画面では、システムログの参照を行います。

日付時刻	内容
2008/03/17 13:50:06	時刻設定が正常終了しました [DV CAM(VAD #1)]
2008/03/17 13:55:06	時刻設定が正常終了しました [DV CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:00:06	時刻設定が正常終了しました [DV CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:05:06	時刻設定が正常終了しました [DV CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:10:06	時刻設定が正常終了しました [DV CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:13:27	しきい値設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:15:06	時刻設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:20:06	時刻設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:21:37	設定値が変更されました。[HD CAM]
2008/03/17 14:21:39	しきい値設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:21:43	設定値が変更されました。[HD CAM]
2008/03/17 14:21:45	しきい値設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:21:54	設定値が変更されました。[HD CAM]
2008/03/17 14:21:56	しきい値設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:25:06	時刻設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:30:06	時刻設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:35:06	時刻設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]
2008/03/17 14:40:06	時刻設定が正常終了しました [HD CAM(VAD #1)]

図2. 8-1 システムログ参照画面

#### ① 本画面の表示

メニューバーの「ログ操作」→「システムログ参照」をクリックします。

#### ② 本画面の終了



をクリックします。

## 2. 8. 2 ログ検索

本画面ではログ抽出のための条件設定を行います。



図2. 8-2 ログ検索画面

### ① 本画面の表示

メニューバーの「ログ操作」→「ログ検索」をクリックします。

### ② 検索条件の指定

#### 1) 検索ログ選択

検索するログの種類をリストより選択します。

##### a. エラーログを検索

「卓名称」を選択します。

##### b. システムログ（システム情報）を検索

「システムログ」を選択します。

#### 2) 検索条件の指定

以下の条件指定が可能です。条件指定を行う場合は、各条件項目にチェックを付けてください。

チェックが付いていないと、条件指定は無効となります。

##### a. 検索日時指定

「開始」「終了」に検索したい日時を入力します。

##### b. キーワード（内容）指定

ログの「内容」欄に含まれる任意の文字を入力します。

③ 検索結果の表示と保存

**検索開始**

ボタンをクリックしてください。「ログ検索結果」画面が表示されます。

ログ検索結果 [DV CAM(VAD #1):2008/03/17 13:40:05 ~ 2008/03/17 13:48:38] 63件		
ファイル	内容	リアルタイム
▶	チェックを(手動)開始しました [DV CAM]	13:40:06
99.99.99.99	<Main> 525iになりました	13:40:06
99.99.99.99	<Main> VITCなしです	13:40:06
99.99.99.99	<Sub> 525iになりました	13:40:06
99.99.99.99	<Sub> VITCなしです	13:40:06
99.99.99.99	<映像比較> 位相変化 発生しました[同位相]	13:40:06
99.99.99.99	<chA> 位相変化 発生しました[同位相]	13:40:06
99.99.99.99	<chB> 位相変化 発生しました[同位相]	13:40:06
99.99.99.99	<chC> 位相変化 発生しました[フレーム遅れ]	13:40:06
99.99.99.99	<Main> 1chレベル高 発生 です [タイムコード (99.99.99.99)]	13:40:18
99.99.99.99	<Sub> 1chレベル高 発生 です [タイムコード (99.99.99.99)]	13:40:18
99.99.99.99	<Main> 2chレベル高 発生 です [タイムコード (99.99.99.99)]	13:40:23
99.99.99.99	<Sub> 2chレベル高 発生 です [タイムコード (99.99.99.99)]	13:40:23
99.99.99.99	<Main> 3ch無音 発生 です [タイムコード (99.99.99.99)]	13:40:26
99.99.99.99	<Sub> 3ch無音 発生 です [タイムコード (99.99.99.99)]	13:40:26
99.99.99.99	<Main> 4ch無音 発生 です [タイムコード (99.99.99.99)]	13:40:30

「ファイル」メニュー → 「保存」をクリックすると、ログ検索結果を保存できます。

「ファイル」メニュー → 「終了」をクリックすると、本画面を終了します。

④ ログ検索の中止

**キャンセル**

ボタンをクリックします。

## 2. 8. 3 ログ削除

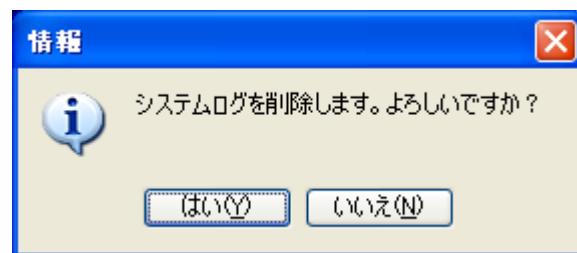
本機能では、取得したログデータを削除します。

本機能に画面は存在しません。

### ① システムログの削除

メニューバーの「ログ操作」→「ログ削除」→「システムログ」をクリックします。

以下の確認メッセージが表示されます。



**[はい(Y)]** をクリックすると、削除します。

**[いいえ(N)]** をクリックすると、削除処理を中止します。

## 2. 9 VAD情報参照

### 2. 9. 1 測定レベル参照

本画面では、VAD-230HDの測定レベルを取得・表示します。

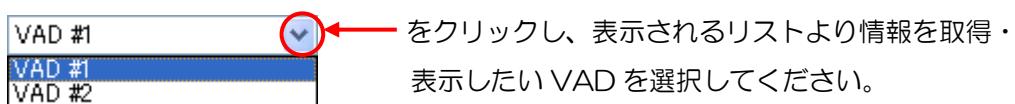


図2. 9-1 測定レベル参照画面

#### ① 本画面の表示

メニューバーの「VAD情報参照」→「測定レベル参照」をクリックします。

#### ② VADの選択



#### ③ 測定レベルの取得・表示

**要求実行** ボタンをクリックします。

#### ④ 本画面の終了

**閉じる** ボタンをクリックします。

## 2. 9. 2 アラーム状態参照

本画面では、VAD-230HD のアラーム状態を取得・表示します。

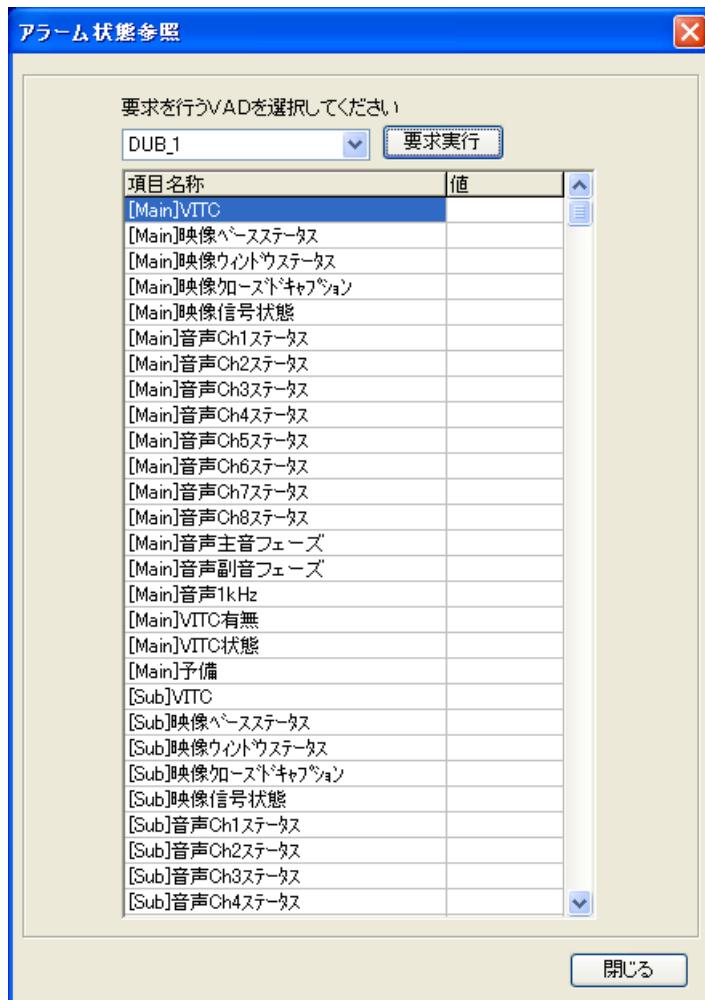
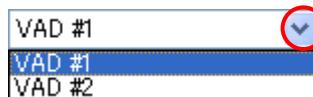


図2. 9-2 アラーム状態参照画面

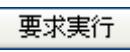
### ① 本画面の表示

メニューバーの「VAD 情報参照」→「アラーム状態参照」をクリックします。

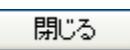
### ② VAD の選択

 をクリックし、表示されるリストより情報を取得・表示したい VAD を選択してください。

### ③ アラーム状態の取得・表示

 ボタンをクリックします。

### ④ 本画面の終了

 ボタンをクリックします。

## 2. 9. 3 しきい値参照

本画面では、VAD-230HD のしきい値を取得・表示します。

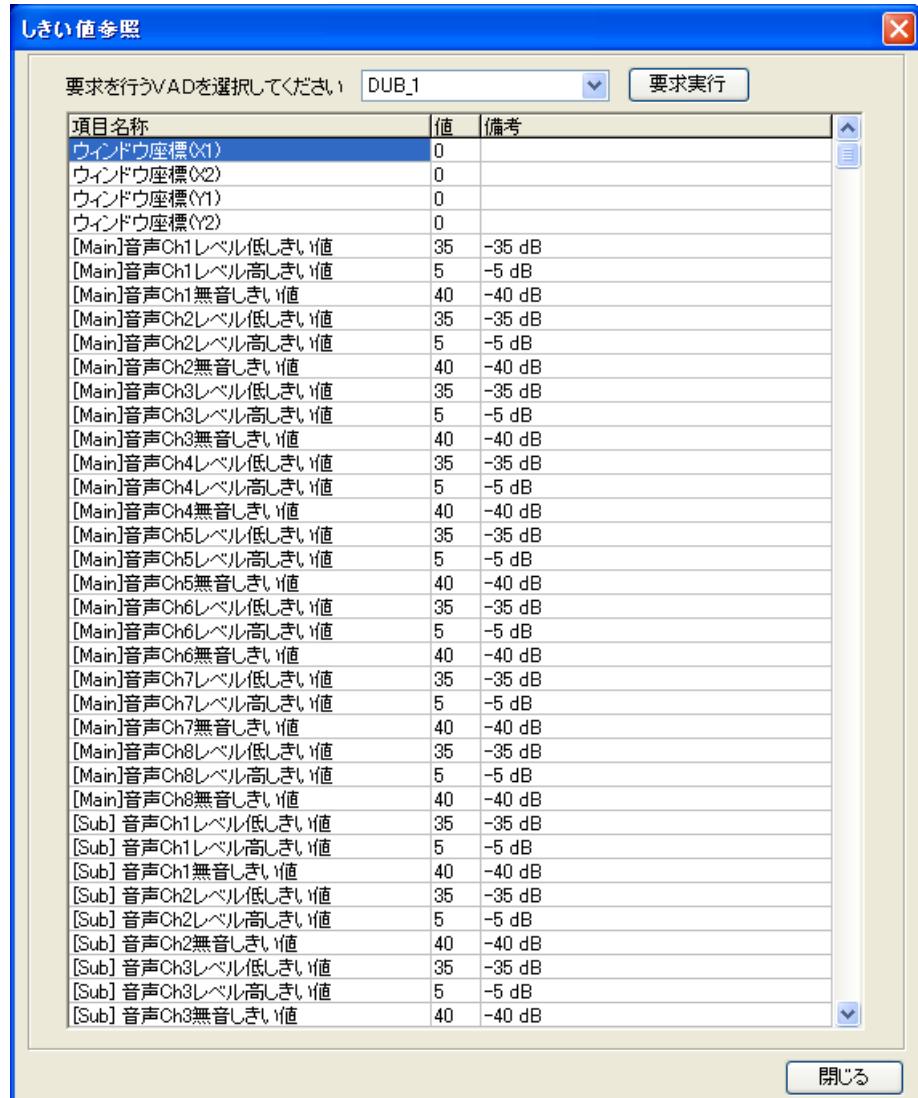


図2. 9-3 しきい値参照画面

### ① 本画面の表示

メニューバーの「VAD 情報参照」→「しきい値参照」をクリックします。

### ② VAD の選択

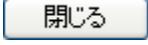
**VAD #1**  をクリックし、表示されるリストより情報を取得・表示したい VAD を選択してください。

### ③ しきい値の取得・表示

**要求実行** ボタンをクリックします。

「値」欄には設定実値を、「備考」欄には設定内容を表示します。

④ 本画面の終了

 閉じる ボタンをクリックします。

## 2. 9. 4 ハードウェア時刻の参照と設定

本画面では、VAD-230HD の時刻参照と時刻設定を行います。

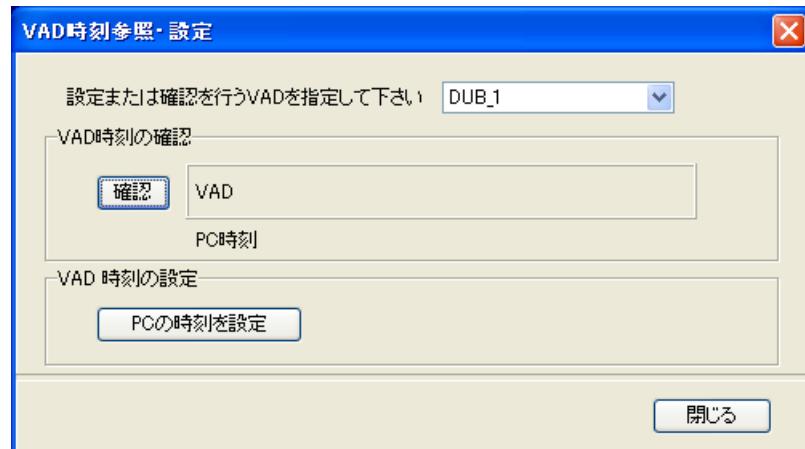
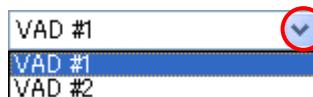


図2. 9-4 しきい値参照画面

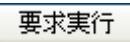
### ① 本画面の表示

メニューバーの「VAD 情報参照」→「VAD 時刻」をクリックします。

### ② VAD の選択

 をクリックし、表示されるリストより情報を取得・表示したい VAD を選択してください。

### ③ VAD 時刻の取得・表示

 ボタンをクリックします。

「値」欄には設定実値を、「備考」欄には設定内容を表示します。

### ④ VAD 時刻の取得・表示

 ボタンをクリックします。

「VAD」に VAD-230HD より取得した時刻を表示します。

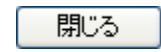
「PC 時刻」に PC の現在時刻を表示します。

⑤ VAD 時刻の設定

 ボタンをクリックします。

PC の現在時刻を VAD に設定します。

⑥ 本画面の終了

 ボタンをクリックします。

## 2. 9. 5 VADバージョン情報参照

本画面では、VAD-230HD のバージョン情報を表示します。

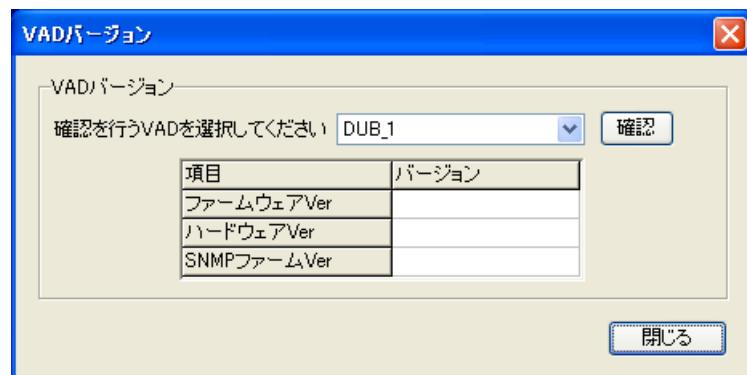


図2. 9-5 VAD バージョン情報参照画面

## ① 本画面の表示

メニューバーの「ヘルプ」→「VAD バージョン」をクリックします。

## ② VAD の選択

 をクリックし、表示されるリストより情報を取得・表示したい VAD を選択してください。

## ③ VAD バージョン情報の取得・表示

 ボタンをクリックします。

## ④ 本画面の終了

 ボタンをクリックします。

## 2. 10 バージョン情報

---

本画面では、監視ソフトのバージョン情報を表示します。



図2. 10-1 バージョン情報画面

① 本画面の表示

メニューバーの「ヘルプ」→「バージョン」をクリックします。

② 本画面の終了

本画面をクリックします。

### 3. 映像キャプチャ ソフトウェア

#### 3. 1 概要

映像キャプチャソフトウェア（以下、キャプチャソフト）は、エラー発生時刻を元に映像比較エラー時の映像をキャプチャするソフトウェアです。

映像ソースはUSBデバイスより常時供給され、これをフレーム毎にメモリ上でバッファリングを行っています。

① キャプチャファイル情報

保存先フォルダ	C:\AVI\ダビング実行年月日\
ファイル名	エラー発生時刻(yymmddhhmmss).avi
フレームサイズ	320 × 240

表3. 1-1 キャプチャファイル情報

② 推奨動作環境

インターフェース	キャプチャデバイスとのインターフェース USB2.0
OS	Windows XP SP3、Windows Vista、Windows 7
CPU	Pentium4 1.6GHz 以上
RAM	1GByte 以上
HDD	回転速度 7200rpm 以上
ディスプレイ	XGA(1024*768)以上
内部I/F	監視ソフトウェアとのインターフェース ローカル UDP を使用

表3. 1-2 推奨動作環境

### 3. 2 操作説明

以下、キャプチャソフトの操作について説明します。

#### ① キャプチャソフトの起動

監視ソフトを起動すると、同時にキャプチャソフトも起動されます。

正常に起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。



図3. 2-1 タスクトレイ表示

#### ② キャプチャソフトの終了

監視ソフトを終了すると、同時にキャプチャソフトも終了します。

#### ③ キャプチャソフトのエラー

##### 1) USBデバイスがPCに接続されていない場合

キャプチャソフト起動時、USBデバイスが監視ソフトの動作するPCに接続されていない場合、図3. 2-1のバルーンヘルプを表示し、プログラムは終了します。

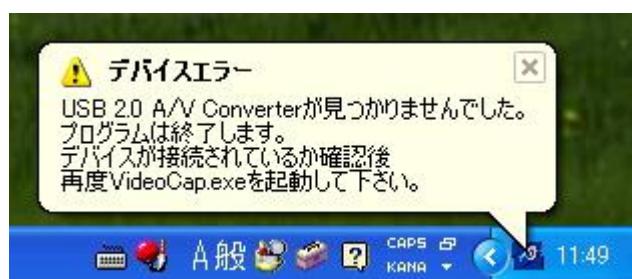


図3. 2-2 デバイスエラー

##### 2) USBデバイスが取り外された場合

キャプチャソフト起動中に、USBデバイスが取り外された場合、

図3. 4. 2のバルーンヘルプを表示し、プログラムを終了します。

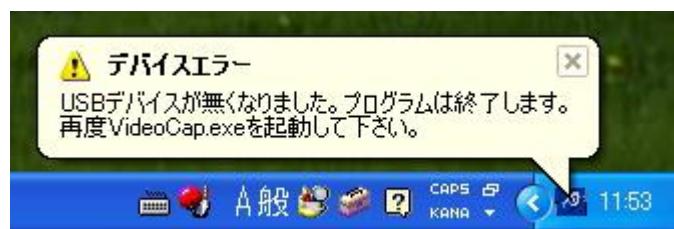


図3. 2-3 デバイスエラー

※注意：USBデバイスを取り外す場合は、監視ソフトを「検知停止」にしてから行ってください。

## 4. 特記事項

---

### 4. 1 インストールフォルダにあるファイルについて

---

インストールフォルダにあるファイルは監視ソフトで使用している重要なファイルです。  
手動で編集、変更する事はお控えください。

## お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についてのアフターサービスは、お買い上げの販売店におたずねください。  
なお、販売店が不明の場合は弊社へお手数でもご連絡ください。

故障・保守サービスのお問い合わせは

販売店：

TEL  
担当

製品の操作方法に関するお問い合わせは

---

無断転載禁止

アルビクス株式会社

〒959-0214

新潟県燕市吉田法花堂1974-1

TEL：0256-93-5035

FAX：0256-93-5038